

日本財団ボランティアサポートセンター

東京2020大会「都市ボランティア」アンケート調査（2）
～延期に伴う活動等への影響等～
—速報版—

2020年6月16日～7月15日実施

—調査結果—

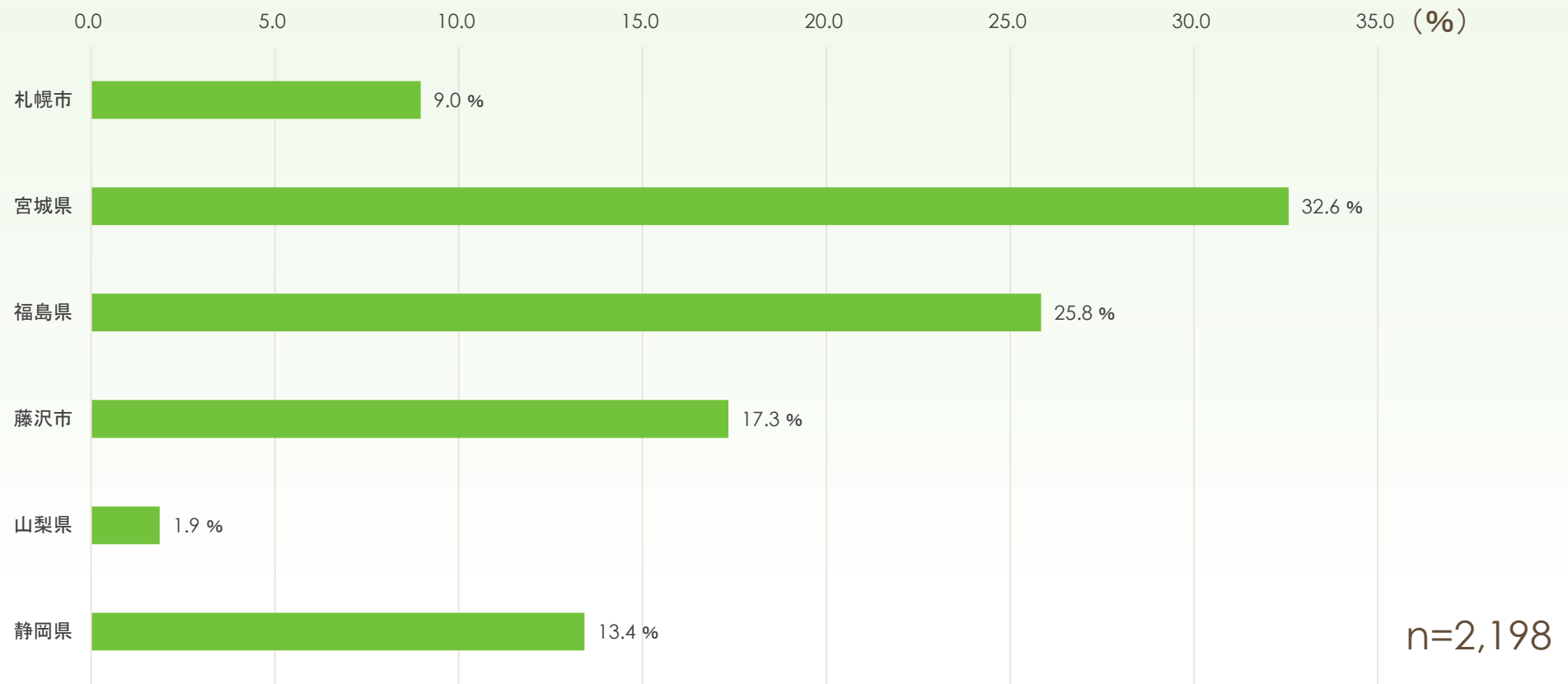


調査概要と方法

東京2020大会「都市ボランティア」アンケート調査（2）～延期に伴う活動等への影響等～

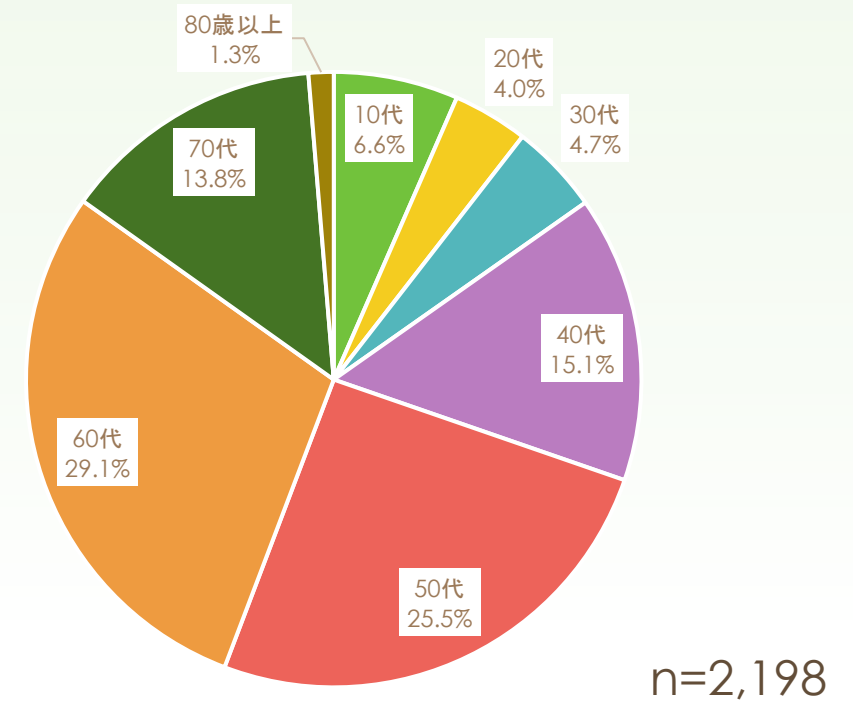
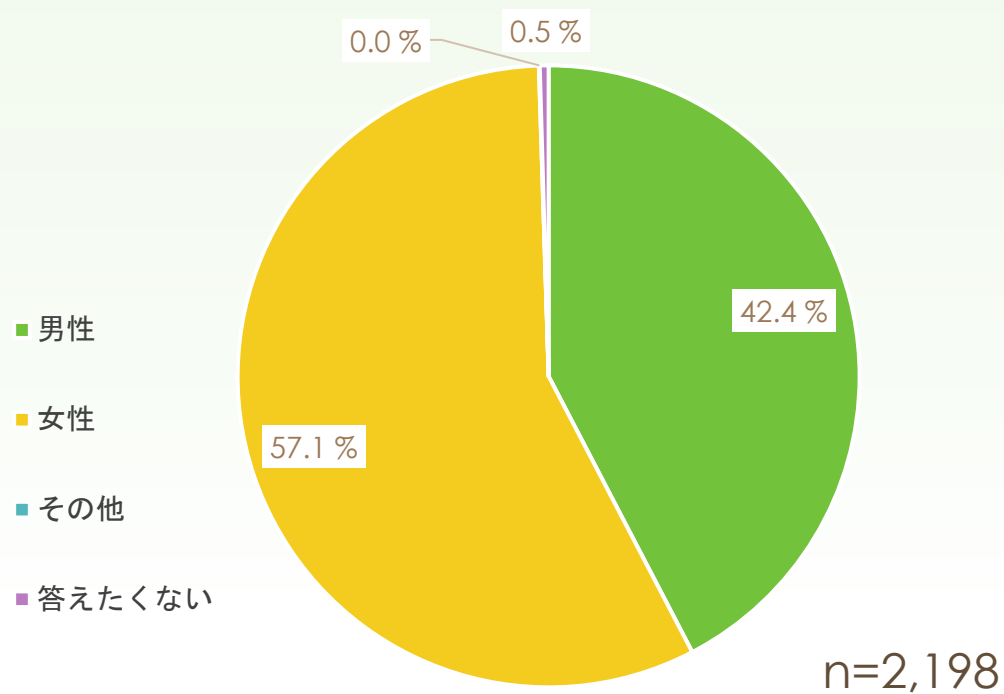
調査時期	2020年6月16日～7月15日まで
調査対象	東京2020大会の関係自治体（6自治体）の都市ボランティア5,702人 （札幌市、宮城県、福島県、藤沢市、山梨県、静岡県） 注）複数自治体の都市ボランティアに応募している場合は、いずれかの1つの自治体から回答する。
調査内容	延期による活動不安、影響、気持ちの変化等
調査方法	インターネットによるアンケート調査
回答者	2,198サンプル（母数：5,702）（回収率38.55%）

自治体別の回答者



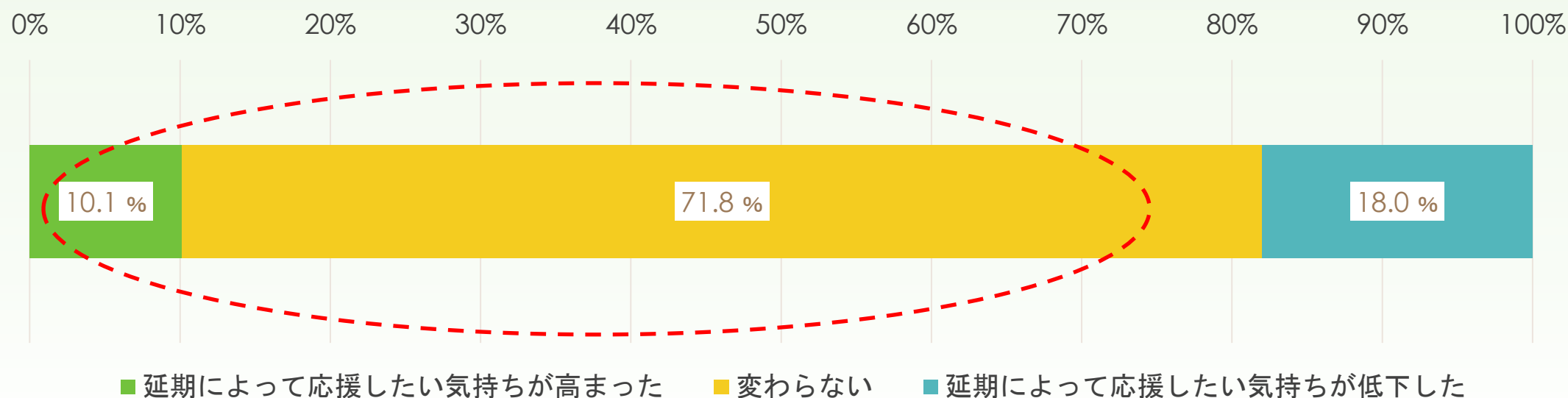
基本属性(性別、年齢)

- ▶性別では、やや女性が多い
- ▶年代では、60代・50代が全体の約6割を占め、30代以下は少ない



大会延期による、オリンピック・パラリンピックを応援する気持ちの変化

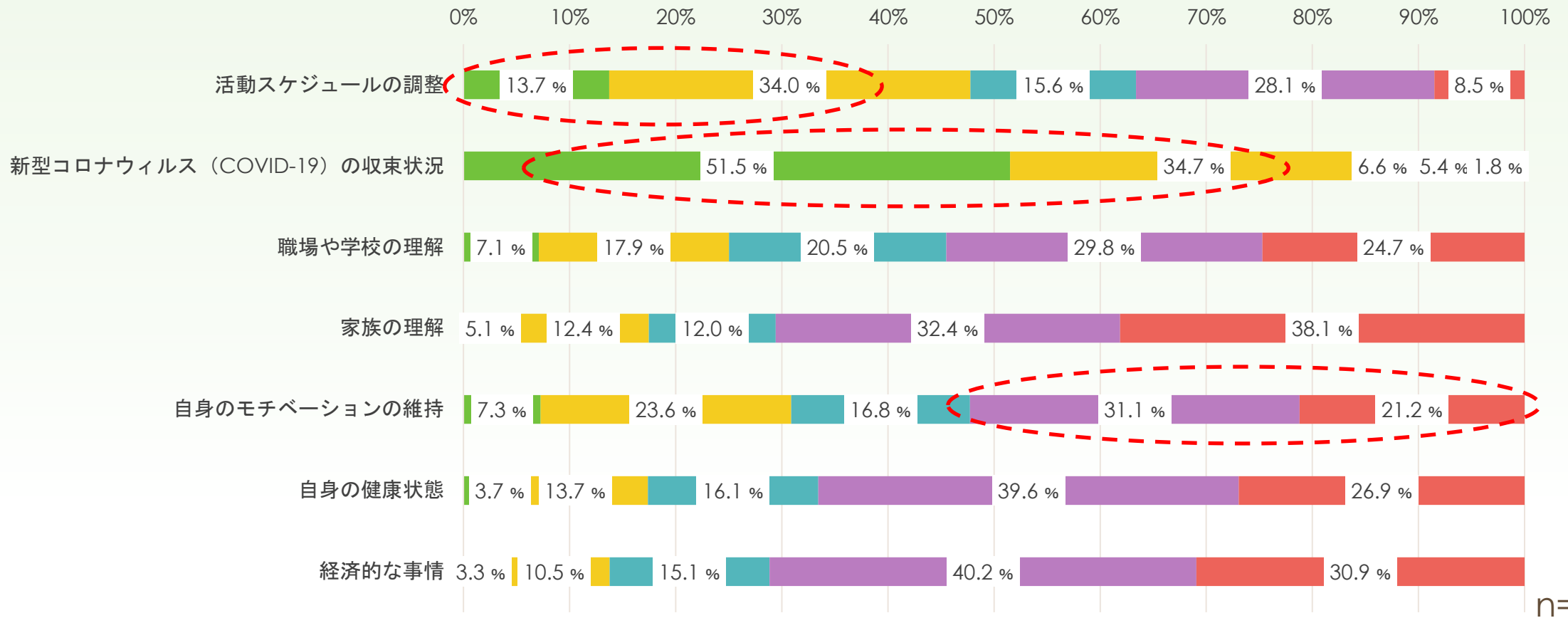
▶約8割の方がモチベーションを維持している



n=2,198

来年都市ボランティア活動をする上での不安要素

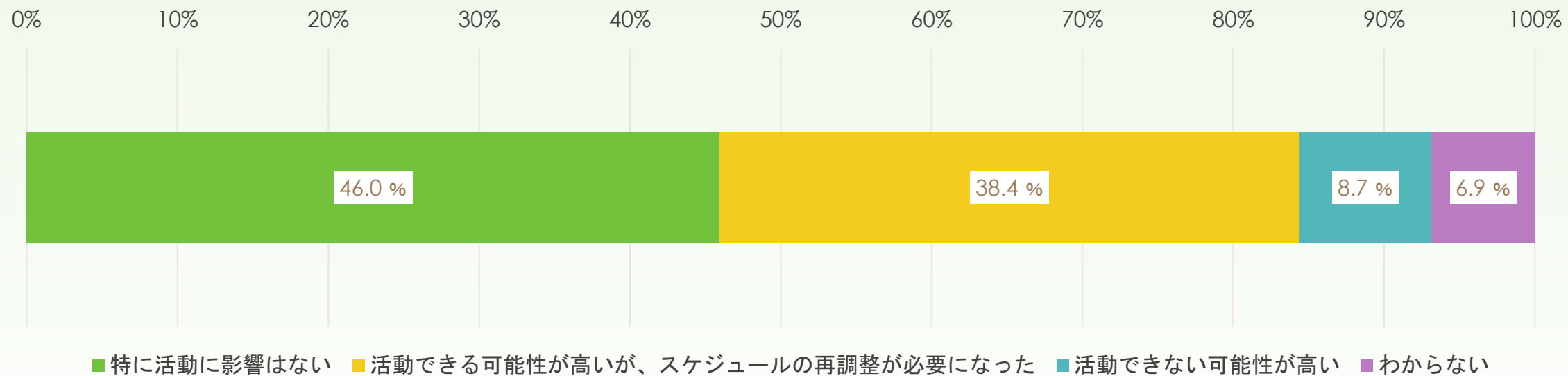
- コロナウィルスの収束状況に関する不安が8割を超えている
- 約半分の方が、活動スケジュールの調整に不安を感じている
- 半数以上の方がモチベーションの維持に不安を感じていない



n=2,198

■ 大いに不安を感じている ■ やや不安を感じている ■ どちらともいえない ■ あまり不安を感じていない ■ 全く不安を感じていない

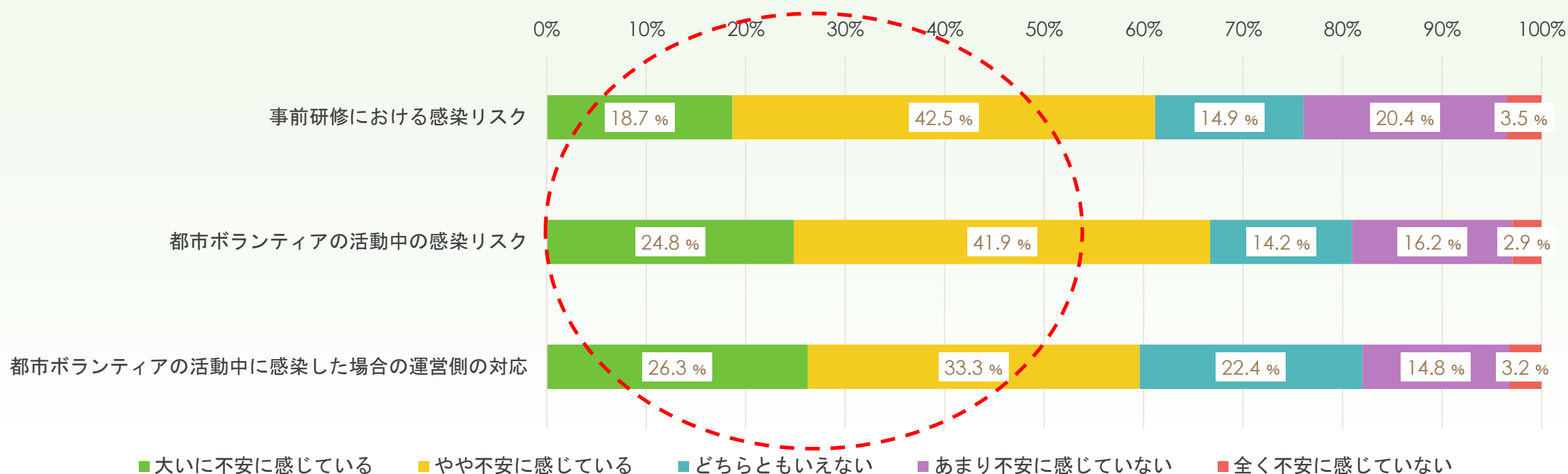
大会の延期による活動への影響



n=2,198

新型コロナウイルス（COVID-19）と都市ボランティア活動

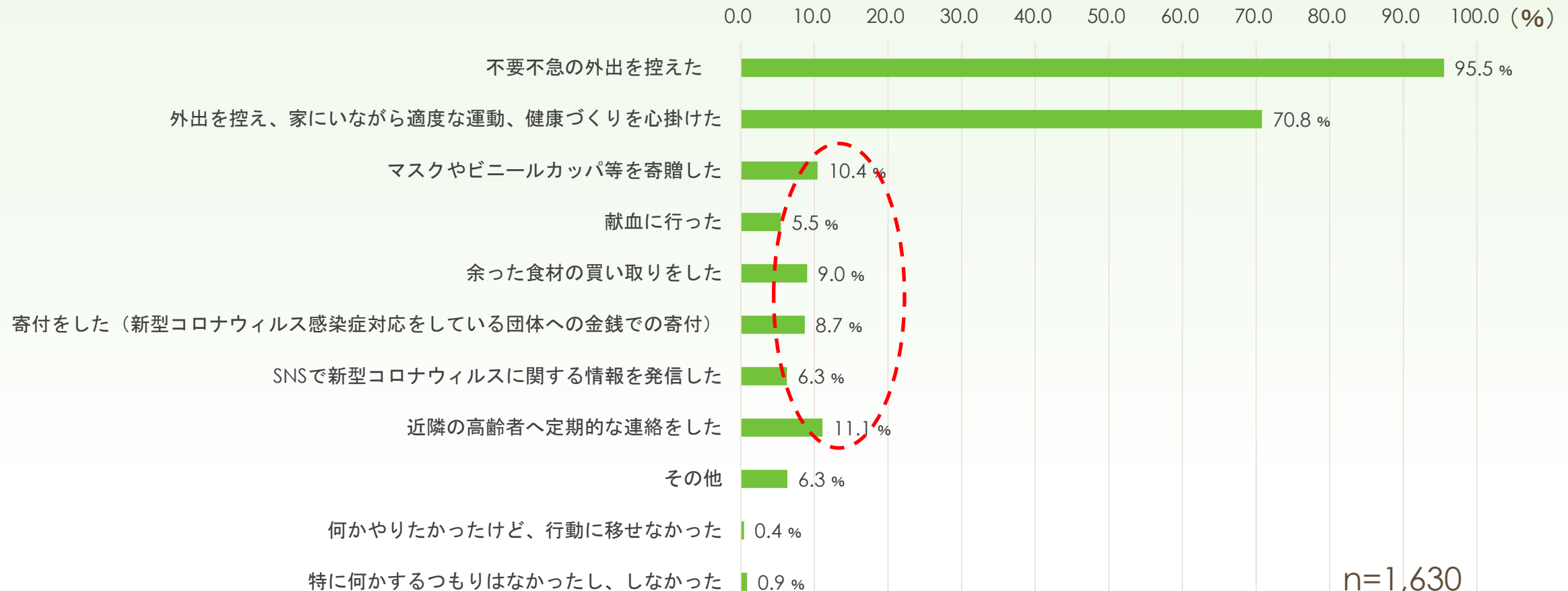
▶約半数の方が、感染リスクに対する不安を抱いている



n=2,198

コロナ禍における行動

- ほとんどの方が外出を控え、7割の方は運動等、健康づくりに心掛けている
- 約1割の方が、コロナに対応したボランティア活動を実施



コロナ禍におけるスポーツボランティア行動

松本山雅ボランティア「チーム・バモス」

5月30日の「ゴミゼロの日」に合わせて、それぞれの地域で各自清掃ボランティアを実施し、その様子をtwitterに投稿。

名古屋グランパス

ごみ拾いに参加したのは、名古屋グランパスの運営を支援するボランティアや学生団体など40人。2020年度でラストシーズンを迎えるスタジアムへの日頃の感謝の気持ちや選手やサポーターなどを綺麗なスタジアムで迎えるため企画。

仙台みやぎ2020青年部

「雑がみ千羽鶴レタープロジェクト」

高校生を中心に、不要な雑がみを活用して千羽鶴を作成し、大会開催を祈願。

スペシャルオリンピックス日本・東京

ボランティアとして活動しているコーチが、オンラインでエクササイズ動画をライブ配信したり、zoomで繋ぎながら一緒に運動支援を行った。普段から一緒にスポーツをしているボランティアが、知的障害のある人達へ、自粛期間をどう過ごしているか定期的に連絡していたという事例がある。



非接触型のボランティアの場の構築

今後の課題と対応策

- ボランティア参加者のモチベーションの維持
(オンライン交流会等の継続的な開催、オンライン学習コンテンツの充実)
- 非接触型のボランティア活動の場の構築
- 非接触型の研修プログラムの開発(バーチャル型のボランティアロールプレイ等)
- ボランティア活動時における感染症対策(マニュアル)の作成と周知
- 定期的な情報提供(検討中の事項も含め、情報提供を定期的に)
- やむを得ず辞退される方への感謝の表し方